

**平成27年度図書館重点事業
実施報告**

東村山市立図書館

平成27年度図書館運営方針

○ 運営方針

市民の多様な学習スタイルや読書要求に応える情報提供の充実に努めるとともに、東村山市子ども読書活動推進計画を推進する。また、読書に関わるボランティア活動、地域活動を支援し、自治意識を育む生涯学習環境の整備に努める。

○ 重点事業

1 第3次子ども読書活動推進計画の推進

子供に関わる部署や関連施設との連携、子供の読書に関わる市民活動への支援等を継続し、年代や生活環境に合わせた取り組みを行う。

- (1) 乳幼児保護者向け啓発事業の実施
- (2) 子供の読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実
- (3) 学校での読書推進に向けた支援事業の充実

2 資料提供の充実

多様な市民ニーズに対応できる資料をバランスよく収集し、提供方法を工夫することにより、暮らしに役立つ情報提供の充実に努める。

- (1) インターネットを活用した情報提供の充実
- (2) 書庫の見直しと重点的な資料整理による蔵書管理適正化の推進

3 読書環境の整備

施設の老朽化を踏まえ、状況に応じた迅速な対応による安心・安全な読書環境維持に努める。

- (1) 中央図書館耐震診断の実施、ならびにその結果に基づく今後の方向性の検討
- (2) 子供用トイレの改修

4 職員体制の充実

業務内容に応じた各種職員研修やOJTにより、利用者への的確な案内・対応ができるような人材の育成を図る。

1. 第3次子ども読書活動推進計画の推進

1-1. 乳幼児保護者向け啓発事業の実施（新規）

取り組み内容と実績

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）による「乳幼児向け読書推進による子育て支援事業」の一環として、以下の事業を実施した。

1. 講演会（託児つき）

- ・「絵本で子育て楽しもう！」（講師：ひろかわ さえこ氏）主催：萩山図書館
平成27年12月1日（火）実施 参加32名

主に乳児を持つ保護者を対象に、赤ちゃん向け絵本を多く手掛けている絵本作家ひろかわ氏から自作絵本の読み聞かせの実演をまじえた赤ちゃんへの読み聞かせについての講演会を開催した。

- ・「親子で楽しむ読み聞かせ」（講師：児玉 ひろ美氏）主催：廻田図書館
平成27年12月8日（火）実施 参加32名

幼児を持つ保護者を対象に、J P I C読書アドバイザーであり、公共図書館でも勤務している児玉氏を招いて、絵本の読み聞かせの意義や絵本の持つ力、絵本の選び方などについての講演会を開催した。

2. ブックリスト「おひざのうえで」シリーズ作成

乳幼児を対象とした「絵本の楽しみかた」と「おすすめ絵本リスト」を4種類各8千部作成し、各館に紹介本コーナーを設置した。今後は乳幼児健診時でも配布する。

成果

- ・ 各講演会ともアンケートを実施したが、多くの方に満足して頂ける結果となった。
- ・ 実際に創作活動をしている作家から話をきく機会は少ないので、今回の講演会により絵本に親しみを感じるとともに、絵本への理解を深めてもらえた。
- ・ 幼児にとっての絵本への共感や読み聞かせについての理解を深めるとともに、子どもにとっての「よい絵本」を知ってもらえる機会となった。
- ・ ブックリストの更新ができ、まとまった部数を印刷することができた。

課題

- ・ 広報については更にWebを活用するなど、見直しが必要である。
- ・ 実際に参加された方の満足度は高いものの、申込みまでのアクションに至らない現実を感じた。今後は、講演会という形式についても再考が必要であると思う。
- ・ 2つの講演会の日程が近すぎたことと、曜日が同じだったことも反省点である。また、子どもが病気になりやすい冬季に設定したこともよくなかったかもしれない。
- ・ 託児の定員が少なかったために、申込みをうけられなかったケースもあった。

図書館協議会からの意見

- ・ 啓発事業は、長期的な見通しを持ったカリキュラムが必要ではないか。
- ・ 開催方法や広報を工夫し、参加者を増やす努力をしてほしい。

1-2. 子どもの読書に関わる市民活動への支援と協働事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

1. 支援事業

第4次東村山市総合計画実施計画「子ども読書活動ボランティア養成事業」

(1) 乳幼児への読み聞かせボランティア新規募集

新規ボランティアを募集し、新たに13名の登録につなげることができた。登録後はベテランと一緒に配置するなど、負担のないように活動に加わってもらっている。

(2) 東村山子ども読書連絡会 (2回 参加人数 延べ36人)

市内で子どもの読書に関わる活動をしているグループや個人をつなぐ連絡会として年2回開催。図書館からの情報提供や参加者相互の情報交換などを行った。

(3) 講座や研修会等の開催

- ◆ 「ボランティアのための『子どもと本を知る』講座」(6回 参加人数 延べ188人)
専門家による2講座のほか、図書館職員と子育て支援課職員・読み聞かせや学校図書館のボランティア協力による4講座を開催した。
- ◆ 「東村山うちでのこづち」のおはなし会・講座開催への支援を行った。
- ◆ 乳幼児への読み聞かせボランティア研修・交流会 (4回 参加人数 延べ72人)
乳幼児への読み聞かせで使うおすすめ本の紹介や、情報交換を行った。
- ◆ 読み聞かせ入門講座 (1回 参加人数 28人)
要請に応じて小学校に職員が出向き、保護者対象に読み聞かせの基礎知識を伝えた。
- ◆ その他、エプロンシアターの貸出、『学校図書館の手引き』(管理・運営マニュアル)の更新など

2. 協働事業（ボランティア派遣等）

- ◆ 乳幼児への読み聞かせ 42か所 324回
3～4か月児健診や関連施設での乳幼児への読み聞かせ活動の充実を図った。
- ◆ 小学生への読み聞かせ (1校 31回)
- ◆ 各種関連団体との取り組み（おはなし会、親子豆本づくり教室、調べ学習講座、おなかの赤ちゃんと楽しむマタニティ絵本タイム等）

成果

- ◆ 新規ボランティアを募集し、13名の新規登録があり、派遣事業の安定的稼働につなげることができた。また、ボランティア派遣については、派遣先・ボランティアとの連絡調整を密に行い、安定的稼働ができています。
- ◆ 子どもの読書に関わる市民へ、活動の状況に応じた講座・研修会・交流会を実施することにより、ボランティアの活動を支援し、活動が充実したものとなった。
- ◆ 新たな企画を共催により実施することができた。

課題

ボランティア派遣事業を安定的・継続的に実施していくためには、研修等によるボランティア活動の質の向上が必要である。

図書館協議会からの意見

- ◆ ボランティア派遣などの成果を、どうわかりやすく表現できるかが大切である。
- ◆ この事業は、生涯学習計画など他の計画にも関係しているので、成果と課題については整合性をつけるよう意識してほしい。

1-3. 学校での読書推進に向けた支援事業の充実（継続）

取り組み内容と実績

学校図書館専任司書（以下「学校司書」）の通年配置 4 年目となった。

学校司書の配置：指導室予算による配置。12 名による 2 校兼務の体制で、各校には週 2 日、1 日 5 時間の勤務。うち 2 名は支援担当として週 2 日ずつ中央図書館に勤務して図書館職員とともに各校への支援を行う。

<研修等>

- 学校司書の研修会（3 回）と、学校図書館担当者連絡会（3 回）を指導室と連携して実施した。うち 1 回は合同研修として外部講師を招き、「教員と司書の連携による学校図書館の活用」とのテーマで、学校図書館を教育活動に活かす取り組みの方法などについて司書教諭や学校図書館主任と学校司書が共に学ぶ機会を設けた。
- 学校図書館ボランティアへの研修は、「ボランティアのための『子どもと本を知る』講座」の 1 講座「本の修理」として実施した。
- 管理・運営マニュアル『学校図書館の手引き』の更新のほか、学校司書配置に関わる各種調整を指導室・学務課と連携して進めた。

<支援>

- 中央図書館に勤務する学校図書館支援担当との協力により、毎月図書館だよりのコンテンツとして教科書の進度に合わせた情報を提供したほか、依頼に応じて図鑑セットや百科事典を貸し出した。
- 各校へは学校司書をはじめ教員からの相談に応じて、授業で利用する本の準備・貸出等の支援を行った。
学校への図書貸出件数 607 件（16,632 冊）（26 年度 687 件 17,310 冊）
- 学校へ出向いてのブックトークや図書館見学の受入等を実施した。

成果

- 学校司書の配置により、各校の状況に応じた学校図書館の整備が進んだ。
- 教員と学校司書の連携により、授業の中で本を活用する機会が増え、様々な取り組みが行われた。

課題

- 引き続き指導室、学務課と連携して、各学校の状況に応じた読書推進の取り組みを支援する。
- さらなる充実に向けて、学校司書の配置日数の拡大や、コンピュータによる蔵書管理システム導入の検討が必要である。

図書館協議会からの意見

- 現状の中では成果を上げてはいるが、学校図書館や学校図書館専任司書についての具体的な状況や活動内容等がわかる資料をもとに、改めて時間をとって協議していきたい。

2. 資料提供の充実

2-1. インターネットを活用した情報提供の充実（継続）

取り組み内容・実績

第4次東村山市総合計画実施計画

「インターネットを活用した中央図書館における情報提供の充実」

1. 利用者用インターネットパソコンの利用

- ◆ 中央図書館にインターネット検索用パソコン2台、オンラインデータベース用検索専用パソコン1台を設置している。

27年度実績 1,817回（26年度実績 1,684回）

2. オンラインデータベースの利用

- ◆ 新聞記事検索、法令検索や百科事典検索等8種のオンラインデータベースの契約をしている。

- ◆ 前年度末に参加した「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス（*）」の利用が非常に多く、全体の利用実績が大幅増となった。

（*国立国会図書館がデジタル化した同図書館の蔵書資料を、同図書館へ出向かなくても日常利用している図書館のパソコンから閲覧や複写ができるサービス）

27年度実績 203回（26年度実績 95回）

- ◆ 経済状況の最新トピックス調査（「日経テレコン21」）や「東洋文庫」の全文検索（ジャパンナレッジLib）等、職員によるレファレンス対応にも有効に活用ができた。

成果

- ◆ サービス開始3年目で日常的な利用が定着している。
- ◆ 「国立国会図書館デジタル化送信サービス」は図書館HPでの広報により区域外からの問い合わせが来るほどの反響があり（規約により使用できるのは当図書館の利用登録者のみ）、これを目的に繰り返し来館する利用者が多かった。

課題

- ◆ オンラインデータベースの利用が大幅に増加したが、利用者が固定化してきているため、未利用者への積極的なサービスのPRが必要である。
- ◆ 職員自身がレファレンスなどの場面で、オンラインデータベースを十分に活用できるように研修がさらに必要である。

図書館協議会からの意見

- ・子どもへのインターネットの使い方や検索の仕方など利用教育についても検討してほしい。

2-2. 書庫の見直しと重点的な資料整理による蔵書管理適正化の推進（新規）

取り組み内容・実績

市内図書館の最終保管場所として設置している共同閉架書庫（萩山図書館内、17万冊収蔵）の重点的な整理を行い、各館からの本の移管や集中管理などの有効活用を進めるための環境を整えた。

1. 共同閉架書庫の除籍・整理

年2回の全館体制での定期的な書庫整理に加えて、汚破損本や複本の精査等の整理を日常業務に組み入れて行い、約2万3千冊（児童書も含む）を除籍した。

2. 大活字資料・外国語資料の集中管理に向けた書庫整理

大活字資料と外国語資料については、各館の書庫の本を共同閉架書庫に移管して一括管理できるように書庫内の保管スペースを拡大した。

3. 各館開架のレイアウト変更・書庫整理

近年の出版傾向として、文庫本で出版される時代小説が増加し、活字も大きくなって高齢者の利用が増えている。それに合わせて文庫本の棚を増やしたり、他の分野においても実態や利用状況に応じて蔵書数のバランスを見直しながら、部分的な書架のレイアウト変更を実施した。

成果

- 共同閉架書庫にスペースの余裕を設け、各館でのレイアウト変更や書架管理の必要に応じた本の移管を日常的に行いやすい環境を作ることができた。
- 大活字本と外国語資料については館ごとの蔵書を徐々に増やしてきたが、全館での資料管理が難しくなってきたため、複本・汚破損本・欠本などの管理を効率的に行うために共同閉架書庫で集中管理できるような書架スペースを設け、一部の整理を開始することができた。

課題

- 共同閉架書庫については、各館の書架を適切に維持するために今後も年2回の書庫整理や除籍を継続的に行う必要がある。
- 各館の開架書架については、5館が整備された当時に比べて資料費が半減しており、新刊購入が減ったことから魅力ある棚を維持することが難しい。大胆なレイアウト変更などの工夫を各館の状況に応じて進める必要がある。

図書館協議会からの意見

- 新規課題として意識して取り組んでいることを評価する。今後も適正な書架管理に努めてほしい。

3. 読書環境の整備

3-1. 中央図書館耐震診断の実施、ならびにその結果に基づく今後の方向性の検討（新規）

取り組み内容・実績

第4次東村山市総合計画実施計画 「中央図書館耐震診断事業」

- 中央図書館は、昭和49年5月（1974）に開館し、現在の耐震基準を定めた改正建築基準法（昭和56年）施行以前の建物であるため、耐震診断を行った。
- なお、地区館については、耐震診断を実施済み（都営住宅併設であるため東京都で実施 富士見・萩山）、もしくは、新しい建築基準法で建てられている（秋津・廻田）ため安全確認済みである。
- 現況調査を6月に実施し、第三者機関による評定を経て、12月に「耐震診断判定報告書」を受領した。

<診断結果>

- 1階・2階部分は十分な耐震性能を有する（IS値：0.75以上）ものの、地下の一部に強度が不足する（IS値：0.75以下）部分があることが判明した。
- また、構造上に問題はないものの、内壁及び外壁に多数のひび割れや鉄骨の露出が認められ補修の必要性があること、誘導灯や吊下げ照明に振れ止めがないことへの改善などが指摘された。

<今後の対応>

- 耐震診断の結果に応じて、地下の壁面の強度を上げるための耐震補強工事の実施設計を平成28年度に行う。

成果

- 中央図書館の耐震診断を実施し、地震発生時の建物としての安全性を確認するとともに、災害時の避難誘導等の対応策を改めて認識することができた。

課題

- 平成29年度、耐震補強工事実施に向け取り組んでいく。
- 耐震補強以外で指摘のあった事項についての取り組みを検討していく。

図書館協議会からの意見

- 施設の耐震補強等の環境整備については、今後も計画的に取り組む必要がある。

3-2. 子ども用トイレの改修（新規）

取り組み内容・実績

- 「地域活性化・地域住民等緊急支援交付金（地方創生先行型）による「乳幼児向け読書推進による子育て支援事業」の一環として、中央図書館、富士見図書館、萩山図書館の子ども用トイレについて、男女とも1か所を和式から洋式へ改修工事を行った。
- なお、秋津図書館、廻田図書館については、子どもも利用できる洋式トイレが館内に設置できているため、改修していない。



従来の和式トイレ



改修した洋式トイレ
(幼児用サイズ)

成果

- 和式トイレの使用経験のない子どもが増えているが、和式と洋式の選択肢を増やし、子どもが一人でも安心してトイレを利用できるようにすることができた。
- さらに交付金を活用して、中央図書館に授乳コーナーを設置し、富士見図書館の児童コーナーのカーペットを張り替えて、乳幼児親子が利用しやすい環境を整備することができた。

課題

- これまでの交付金等の活用により、全館に洋式トイレを配備することができているが、中央図書館2階のトイレについては和式便器のみであるため、利用者が選べるような環境を整備していきたい。

図書館協議会からの意見

- 交付金を活用して必要な設備改修をタイミングよく実施できたことを評価する。

4. 職員体制の充実

業務内容に応じた各種職員研修の充実（継続）

取り組み内容・実績

1. 内部研修

① 日常業務を深めるための研修（専門知識・技能の習得）

図書館新人研修（対象：新任職員・新任嘱託職員）

図書館の役割、当市の図書館の特色、実務の基本となる考え方など

嘱託職員向け研修（対象：児童担当嘱託職員）

蔵書構成や季節に応じた書架管理、本の紹介、ボランティア派遣など

② 「子どもと本を知る講座」への参加 6回

図書館主催のボランティア対象の講座だが、「乳幼児の発達と絵本」「小学生への読み聞かせ」「発達障害と絵本」など、子どもと本をつなぐ上で基礎となる知識を学ぶ機会として、各回2～7人の児童担当職員・嘱託職員が研修として参加した。

2. 外部研修への参加 15回（内、見学会1回）

- ◆ 都立図書館・都内の図書館関連団体が開催する講演会、研修会への参加により、図書館に関する知見を深め、より専門的な技能の習得を図った。

成果

- ◆ 各担当の嘱託職員への研修機会が増え、業務への理解を深めることができた。
- ◆ 研修受講者は研修時の資料を添えて報告としてまとめ、関連業務に関わる職員に回覧することにより、参加できなかった職員にも情報の共有を図り、知識や技能を伝達することができた。

課題

- ◆ 業務の質を高めるためには、館内だけでなく外部研修も有効であり、外部研修の情報を積極的に収集していく必要がある。
- ◆ 中央図書館のレファレンスカウンターを担当できる職員数を増やすための初級研修が必要である。

図書館協議会からの意見

- ◆ 今後も各種研修を職員・嘱託ともに積極的に取り組み、資質向上に努めてほしい。